

VIII-3-1 単元「職業インタビューに出かけよう」 (柏崎市立松浜中学校 第1学年)

1 単元指導計画

1-1 単元名「職業インタビューに出かけよう」(全30時間)

担当者 山本直恵 若林亮一 金沢久美子

1-2 単元設定の理由

(1) 生徒の実態

秋に行われる新潟市での職業インタビュー活動の準備として、1学期は「職業調べ」活動をした。タウンページから職業を選び、「仕事の内容」「収入」「進路」「必要な資格」についてレポートにまとめ、発表会を開いた。その活動を通して、生徒は世の中には自分が知らない様々な職業があり、職業に就くための進路もさまざまであることを知った。

本校では3年前から中学1年時に職業インタビュー活動を実施しているが、柏崎市内で活動することから生ずる問題点として、将来の夢に直接結びつく職業が市内では見あたらずにインタビューできない、という実態があった。そのため、幅広い職業が存在する大都市での職業インタビューを希望する声が、生徒の中から生まれていた。

今年度の職業インタビューでは柏崎市内から新潟市へ場所をかえて職業インタビュー活動を実施することとした。

(2) 教師の願い

1年生の発達段階で生徒自身が思い描く将来の夢は実に様々である。生徒はその夢を基盤にしつつ、様々な人との出会いと多くの価値選択の機会を通して自分の生き方やあり方を構築していく。

そこで多様な職業の人々と積極的にかかわり合うことを通して、職業人としての自己の将来像を思い描き、よりよい生き方を選択できる生徒を育成するために職業インタビュー活動を設定した。柏崎市教育委員会の内容系列表でいえば、「進路・生き方」の「働く人の存在を知り、働く意味に気付く」「様々な仕事の存在に気付く」にあたる。

動機付けでは、生徒が自己の将来像を思い描き興味関心のある職業を探せるように支援したい。

追究では、職業インタビュー先を探し、アポイントをとり、訪問先へ手紙を書く活動を入れる。そしてインタビュー内容を考えたり全体で検討会を開いたりしながら、質問内容を考える活動を入れる。インタビュー活動では、仕事の内容・働く意義・苦勞・素晴らしさを中心にインタビューをする。これらの追究活動では手紙の書き方、挨拶、礼儀正しい言動、遅刻をしないなどの社会的マナーも考えて行動させたい。

まとめでは、職業インタビュー活動を通して得た情報を交換し合い、インタビューを通して気付いたこと、今後の自分の生き方を見つめ直して考えさせたい。

1-3 単元の目標

職業インタビュー活動を通して、仕事の内容や働く意義・苦勞・素晴らしさを理解し、職業人としての自己の将来像を思い描いたり、よりよい生き方を考えたりすることができるようになる。

1-4 単元の評価規準

○関心・意欲・態度

- ① 自分の将来の夢を思い描こうとする。
- ② 職業インタビューへの取り組みやまとめの活動に積極的に取り組もうとする。

○思考・判断

- ① 仕事の内容と働く意義・苦勞・素晴らしさを見つめ直して考える。
- ② 仕事の内容と働く意義から、自己の職業観や働く意味を関連付けて、今後の自分の生活について考える。

○技能・表現

- ① TPOに応じた言動を用いて、アポイントメントを取る活動やインタビュー活動をすることができる。
- ② インタビュー活動で得た情報を、わかりやすくまとめ発表することができる。

○知識・理解

- ① 仕事の内容と働く意義・苦勞・素晴らしさを理解する。

1-5 学習過程と評価計画

学習活動	支援 (方法・内容)	評価規準				評価資料
		関心意欲態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
1 興味・関心のある事柄と職業を結び付けて考える。(2)						
① 将来の夢や興味関心のある事柄を書き出す。(1)	・イメージマップの手法を用いて自分の将来像を思い描くよう指示する。	①				カード1
② 将来の夢や興味関心ある事柄と職業を結びつけてインタビューしたい職業を考える。(1)	・イメージマップの言葉から連想される職業名を書き出す。書けない生徒には面談を通して興味関心を抱いている職業を導き出す。		①			カード1
2 職業インタビュー先を決める。(10)						
① インタビューしたい訪問先を探す。(4)	・断られることも想定してインタビュー先を2つ以上探すことを伝える。 ・情報検索にはインターネットやタウン	②				カード2
				①		検索場面の観察

<p>②インタビュー希望先にアポイントメントを取る。(4)</p> <p>③インタビュー先への手紙を作成し送る。(2)</p>	<p>ページ、書籍を用いることを伝え情報検索の方法を教える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決まらない生徒と面談して一緒に探す。 ・訪問希望先と応答問答を書き込むためのワークシートを用意する。 ・ワークシートに訪問希望先と応答問答を記入するよう指示する。 ・教師はワークシートに書かれた生徒の応答問答をチェックする。 ・電話の前にアポイントの見本を役割演技で示し、生徒に練習させる。 ・手紙の書き方マニュアルを準備する。 ・生徒の手紙に不備がないかチェックする。 			<p>①</p> <p>①</p>	<p>カード2</p> <p>手紙の文面と郵送の日付</p>
<p>3 インタビューの準備をする。(8)</p> <p>①訪問先への生き方を調べ予定表を作る。(2)</p> <p>②「仕事の内容、働く意義・苦勞・素晴らしさ」や、職種に応じた特色ある質問内容を考える。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JR やバスの時刻表、路線図、料金表を準備する。 ・30分前には訪問先へ到着できるような余裕をもった予定表を作成するように助言する。 ・インタビューの中で「仕事の内容、働く意義、苦勞や工夫、素晴らしさ」を必ず聞くよう指示する。 ・職業の内容を調べカード3に記入することを指示する。そのとき職業調べ活動時のレポートや新聞スクラップ、書籍を活用するように助言する。 ・職業の内容を理解しながら特色ある質問を考えるように助言する。 ・人は何のために働いているのかを考えるワークシートを準備する。 		<p>①</p>	<p>①</p>	<p>行動予定表の見取り</p> <p>カード3</p>

<p>③ 友達のインタビュー内容を考え交換し合う。(1)</p> <p>④ 付箋の内容を参考にインタビュー内容を改善する。(4)</p>	<p>備する。 ・付箋に質問内容を書くように指示する。</p> <p>・集まった付箋紙を整理し、アドバイスを有効に活用するように伝える。 ・重要な内容を見落としていないか教師が見て回り、よいものは付け加えるように促す。</p>		①			<p>付箋の内容</p> <p>カード3</p>
<p>4 計画に従って職業インタビューをする。(4)</p>	<p>・インタビューの仕方の見本を見せる。 ・インタビュー練習を行い事前に注意点を伝える。 ・インタビュー時には携帯電話で連絡を取り、時間と安全の確認をする。 ・挨拶やTPOに応じた振る舞いに気をつけて、失礼のない様にインタビュー活動をするよう指示する。 ・自分のインタビューを振り返るカードと訪問先から評価してもらったカードを用意する。 ・公共交通手段では行けない訪問先へは教師が車で送る。</p>	②		①		<p>行動のみとり</p> <p>カード4に記入された他者評価</p>
<p>5 仕事の内容、働く意義・苦勞・素晴らしさなど、インタビューをして得た情報をまとめる。(4)</p>	<p>・仕事の内容、働く意義・苦勞・素晴らしさなどを分かりやすく伝えられるように、字の大きさや線に工夫を加えたり、もらったパンフレットや写真を貼るよう助言する。 ・発表資料に、職業インタビューの前と後で職業に対する自分の考えがどのように変化したかを記述する欄を設ける。</p>	②	②	②	①	<p>発表資料提出の日付</p> <p>発表資料のみとり</p>
<p>6 職業インタビューの発表を通して、自分の生き方について考える。(2)</p> <p>① インタビューのまとめを発表しあう。(1)</p>	<p>・発表前に発表用の原稿を書く準備をする。 ・聞き取りのために</p>			②		<p>発表場面の観察</p>

<p>② 職業インタビューを通して気付いたこと、今後の生活をどうしていきたいか考えたことを作文に書く。(1)</p>	<p>相互評価用紙を準備する。 ・発表資料の示し方や声の大きさに気をつけて発表するように指示する。</p> <p>・インタビュー時のメモ、インタビューまとめの資料、発表の聞き取りメモを活用して、働く意義、苦労や工夫、素晴らしさの中にある共通点を探そう助言する。</p> <p>・職業インタビューの前と後で職業に対する自分の考えがどのように変化したか書いた資料を参考に、今後の自分の生活について考えるよう助言する。</p>	<p>②</p>			<p>作文の分析</p>
--	--	----------	--	--	--------------

1-6 評価基準

学習活動	評価規準	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
				A (3)	B (2)	C (1)
1 興味関心のある事柄と職業を結び付けて考える。 ① 将来の夢や興味関心のある事柄を書き出す。	関心・意欲・態度①	自分の将来の夢や興味関心ある事柄を書くことができる。	カード1	自分の将来の夢や興味関心ある事柄をイメージマップ上に5つ以上書いている。	自分の将来の夢や興味関心ある事柄をイメージマップ上に2~4つ書いている。	自分の将来の夢や興味関心ある事柄を1つ書いている。
② 将来の夢や興味関心ある事柄と職業を結びつけてインタビューしたい職業を考える。	思考・判断①	将来の夢や興味関心ある事柄と職業を結びつけながら、インタビューしたい職業を考える。	カード1	将来の夢や興味関心ある事柄と職業を結びつけて2つ以上の職業名を書いている。	将来の夢や興味関心ある事柄と職業を結びつけて1つの職業を書いている。	将来の夢や興味関心ある事柄と職業を結びつけて書いていない。
2 職業インタビュー先を決める。 ① インタビューしたい訪問先を探す。	関心・意欲・態度② 技能・表現①	インタビュー先を探している。 インタビューしたい職業と関連した訪問先を探すためにインターネット、タウンページ、書籍等の情報媒体を使うことができる。	カード2 検索性の観察	カードに訪問先を3つ以上書いている。 インターネット、タウンページ、書籍など3つ以上の情報媒体を用いて探している。	カードに訪問先を2つ書いている。 インターネット、タウンページなど2つ以上の情報媒体を用いて探している。	カードに記入した訪問先が1つ以下である。 1つの情報媒体を用いて探している。
② 訪問先にアポイントメントを取る。	技能・表現①	アポイントメントを取るために必要な事柄をカード2に記入することができる。	カード2	教師の援助を受けずに訪問日時・訪問の目的・主な質問内容をすべてを順序良く書いている。	教師の援助を受けながら訪問日時・訪問の目的・主な質問内容をすべてを順序良く書いている。	訪問日時・訪問の目的・主な質問内容のうちいずれかを書き忘れている。

		アポイントメントを取るために、訪問先に電話をすることができる。	電話面の観察	「挨拶をしている」「話に相づちをうったり返事を返している」「必要な内容を伝えている」「聞きたい情報を得ている」の4つとも守られている。	「挨拶をしている」「話に相づちをうったり返事を返している」「必要な内容を伝えている」「聞きたい情報を得ている」のうちいずれか3つが守られている。	「挨拶をしている」「話に相づちをうったり返事を返している」「必要な内容を伝えている」「聞きたい情報を得ている」のうち2つ以下しか守られていない。
③訪問先への手紙を作成し送る。	技能・表現①	訪問先に訪問日時・訪問の目的・質問内容・訪問者の名前を伝えるために、手紙を書いて送ることができる。	手紙の文と送付の日	手紙に訪問日時・訪問の目的・質問内容・訪問者の名前全てが書かれ、訪問の2週間前までに郵送している。	手紙に訪問日時・訪問の目的・質問内容・訪問者の名前全てが書かれているが、郵送が訪問の10日前までである。	手紙に訪問日時・訪問の目的・質問内容・訪問者の名前全てが書かれているが、郵送が訪問の1週間前までである。
3 インタビューの準備をする。 ①訪問先への行き方を調べ予定表を作る。	技能・表現①	訪問先に行くために、JRやバスの時刻表、路線図、料金表を用いながら行動予定表を作ることができる。	行動の予定表のみ	訪問先に到着できるように、交通手段、路線、時刻、料金を整合性よくまとめて書いている。	交通手段、路線、時刻、料金いずれかか間違いがあり手直しが必要であるが、訪問先に到着できる予定表になっている。	交通手段、路線、時刻、料金の整合性がなく、訪問先に到着できない予定表になっていないため、教師の手直しが必要である。
②インタビュー内容を考える。	思考・判断①	「仕事の内容」「働く意義」「苦勞」「働くことの素晴らしさ」を聞き出したり、職業に応じた特色ある質問内容を考える。	カード3	「仕事の内容」「働く意義」「苦勞」「働くことの素晴らしさ」以外にも職種に応じた特色ある質問を記述している。	「仕事の内容」「働く意義」「苦勞」「働くことの素晴らしさ」についての質問を記述している。	「仕事の内容」「働く意義」「苦勞」「働くことの素晴らしさ」の4つのうち、質問の記述が3つ以下である。
③友達のインタビュー内容を考え交換し合う。	思考・判断①	「この職業ならこんなインタビュー内容がいいのではないか」と自分もインタビューするつもりになって内容を考える。	付箋の内容	その職業ならではのインタビュー内容を2つ書いている。	その職業ならではのインタビュー内容を1つ書いている。	その職業ならではのインタビュー内容を書いていない。
④付箋の内容を参考にインタビュー内容を改善する。	思考・判断①	付箋の内容を参考に、自分のインタビュー内容を改善できる。	カード3	付箋を整理して新しいインタビュー内容を付け加えている。	付箋を整理するが、新しいインタビュー内容を付け加えていない。	付箋を整理していない。
4 計画に従って職業インタビューをする。	関心・意欲・態度②	計画に従ってインタビューをすることができる。	行動のみ	2つの訪問先とも遅刻せずに訪問先を訪れ、インタビュー活動をしている。	2つの訪問先のうち1つは遅刻したが、インタビュー活動をしている。	2つの訪問先に遅刻はしたが、インタビュー活動をしている。
	技能・表現①	インタビュー時に「挨拶を忘れない」	カード4	訪問先からの評価カードの	訪問先からの評価カードの	訪問先からの評価カードの

		「相手の顔を見ながら話をしたり聞いていたりしている」「仕事の内容と働く意義・苦勞・素晴らしさが理解できるインタビュー内容であった」に気をつけて、TPOに応じた言動を用いることができる。	記入した訪問からの他者に評価	枚数×3つの評価の観点の達成度が8割を越えている。	枚数×3つの評価の観点の達成度が6割を越えている。	枚数×3つの評価の観点の達成度が6割に満たない。
5 仕事の内容、働く意義・苦勞や工夫・素晴らしさなどインタビューして得た情報をまとめる。	関心・意欲・態度②	インタビューの内容を発表資料にまとめることができる。	発表資料提出の日付	発表資料が2つとも締切間に合っている。	発表資料のうち1つが締切間に合っている。	発表資料を提出していない。
	思考・判断②	職業インタビューの前と後を比べ、職業に対する自分の考えが変わった点と変わらない点について考える。	発表資料のみとり	職業に対して自分の考えが変わった点と変わらない点を記述するとともに自身の視野の広がりに関する記述がある。	職業に対して自分の考えが変わった点と変わらない点を両方について記述している。	職業に対して自分の考えが変わった点と変わらない点、一方について記述している。
	技能・表現②	インタビュー活動で得た情報を分かりやすくまとめるために、レイアウトや図、線などを使うことができる。	発表資料のみとり	インタビュー活動で得た情報が書かれていると共に、線や文字を見やすくし、パンフレット、写真などの資料をレイアウトを考えながら加えている。	インタビュー活動で得た情報が書かれており、線や文字を見やすくしているが、パンフレット、写真などの資料に工夫がない。	インタビュー活動で得た情報が書かれているが、線や文字・パンフレット、写真などの見やすい工夫がみられない。
	知識・理解①	「仕事の内容」「働く意義」「苦勞」「働くことの素晴らしさ」を理解する。	発表資料のみとり	4つの観点に関する記述を発表資料に書いている。	4つの観点のうち、いずれか3つの観点に関する記述を発表資料に書いている。	4つの観点のうち、いずれか2つの観点に関する記述を発表資料に書いている。
6 職業インタビューの発表を通して、自分の生き方について考える。 ①インタビューのまとめを発表しあう。	技能・表現②	インタビュー活動で得た情報を分かりやすく伝えるために、声の大きさに気をつけたり資料を順序よく示して発表することができる。	発表場の観察	「声の大きさ」「発表資料の示し方」の2つとも○である。	「声の大きさ」「発表資料の示し方」いずれか1つが○である。	「声の大きさ」「発表資料の示し方」の2つとも×である。
	②職業インタビューを通して気付いたこと、今後の生活をどうしていきたいか考えたことを作文に書く。	思考・判断②	自己の職業観の変化を確認し、働く意義、苦勞、素晴らしさから導きだされる「職業人の生き方」をふまえ、今後の自分の生活について考えることができる。	作文の分析	「自己の職業観の変化」と「職業人としての生き方」の両者に触れて、今後の自分の生活をどう考えたかについて記述している。	「自己の職業観の変化」と「職業人としての生き方」のいずれかに触れて、今後の自分の生活をどう考えたかについて記述している。

2 授業と評価の実践

2-1 授業と評価の一体化の実践

学習活動1 興味関心のある事柄と職業を結びつけて考える。

① 将来の夢や興味関心ある事柄を書き出す

(1) 指導・学習の過程

1学期行った「職業調べ」活動をうけて、職業と自分の興味関心を結びつけて考える活動を用意した。ここではイメージマップを用いて、「将来の夢や興味関心ある事柄」を紙に書き出し、自分の将来像を思い描くようにした。

将来の夢をはっきり持っている生徒は、イメージマップに夢や職業名を数多く記入した。将来の夢や興味関心のある事柄をイメージできない生徒には「今好きなことは何だろう」と問いかけ、書き出された言葉から発想する職業名を記入していった。2名の生徒は教師が援助しても将来をイメージできなかったため、次の時間までに考えてくるように話した。

(2) 評価結果

評価は、カード1に記載された内容で行った。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
関心・意欲・ 態度①	自分の将来の夢や興味関心ある事柄を書くことができる。	32人	13人	2人

評価の結果、将来の夢や興味関心ある事柄を5つ以上書いた生徒は32人、2～4つ書いた生徒は13人、1つ書いた生徒は2人だった。AB評価あわせて45人の生徒が自分の将来の夢を考え、記入することができ、一定の成果があったと考える。

しかし、イメージマップに記入された言葉や生徒の様子をみると、自分の特性を考えず興味本位で考えたり、将来を思い描けない生徒も少なくないことが分かった。

この結果から、事前に親の職業観をふまえた親子学習会を持ったり先輩の職業インタビュー活動を参考にするなどの学習過程が必要だという教師の課題が明確になった。

生徒の一言感想より

自分の想像でいろんなことを書くのがとても楽しかった。

自分が将来就きたい仕事やしたいことが思ったよりたくさん書けた。

将来のことはまだよく分からなかったけど、書くのは楽しかった。

1つしか書けなかった。

学習活動 1 ② 将来の夢や興味関心ある事柄と職業を結びつけて、インタビューしたい職業を考える。

(1) 指導・学習の過程

イメージマップの内容を受けて、具体的な職業名を書き出す作業を行った。カード1には2つ以上の職業名を書くことを伝えた。すでにイメージマップの中に職業名を書いている生徒もいたため、それらの生徒には書き出した職業と関連している職業が他にはないか、考えるように促した。

(2) 評価結果

評価は、授業後に回収したカード1の内容で判断した。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・判断①	将来の夢や興味関心ある事柄と職業を結びつけながら、インタビューしたい職業を考える。	24人	14人	9人

この結果から、38人の生徒がインタビューしたい職業を1つ以上書き出すことができたとわかる。前時の学習で、インタビューしたい職業を書き出している生徒もいたため、全体としては順調に学習が進み、このような評価結果になったと考察する。

生徒の一言感想を読むと「将来の夢は動物関係の仕事だから、犬の訓練所にした。」「人の役に立つ仕事に就きたかったので警察官にした。」と将来の夢と職業をしっかりと結びつけて考えた姿が分かるものもあれば、「将来になりたい夢ではないけれど、毎日沢山の人が利用するお店ではどんな仕事をするのか興味があるので、この職業を選んだ。」と、興味関心のある事柄と職業を結びつけて考える姿が分かるものもあった。逆に「になりたい夢ではなく友達のになりたい夢にくっついてしまった。」「難しくて混乱した。」という感想もあった。

このことから、自分の現在の姿や将来像をしっかりと考えることができた生徒はインタビューしたい職業を考えることはたやすいが、自分についてあまり考えることがない生徒にとっては、適当に決めたり周囲の考えに流されたりしやすいことが分かった。全体としては十分に成果のあった学習であると考察する。

(3) 指導の改善と実施

C評価の9人には教師が個別面談をし、今の自分、将来の自分に目を向けさせるように支援した。9人のうち5人は、何らかの職業を探した。4人はイメージマップから職業を考えることができなかったため、タウンページの職業索引や1学期の職業調べから、興味関心ある職業を書き出し、インタビューしたい職業名を書いた。

学習活動2 職業インタビュー先を決める

① インタビューしたい訪問先を探す。

(1) 指導・学習の過程

生徒は、職業インタビュー先を探すための情報媒体としてタウンページ、インターネット、書籍を使用した。進路学習用の書籍で職種と職業の分類や仕事の内容を調べ、関連する職業にも目を向けさせた。次に新潟市版のタウンページを用いて職業索引で訪問先を探した。その時に交通の便がよさそうな場所を地図で確認したりした。また同時進行でインターネットでも検索した。

具体的な訪問先を探すにあたり、教師は生徒と面談をした。教師は生徒のイメージマップをたよりに、生徒の将来の夢と一致する職業を探すよう促した。新潟市に生徒の希望と一致する職業が見つからない場合には、イメージに近い職業を探すようにした。例えば、将来の夢が野球選手の生徒には、高校野球の監督や野球専門店を、ゲームソフトの開発を希望する生徒は、システムエンジニア（SE）の会社やコンピュータ専門学校を探すよう助言した。

2日間のインタビュー活動になるため、教師は生徒に2カ所以上の訪問先を探すように伝えた。できれば3カ所探しておく、もし断られても対応できると伝えた。すると生徒は同じ職業を希望するもの同士がグループとなって、友達と協力しながら2カ所以上の訪問先を探していた。最終的には合計41カ所の職業インタビュー先を見つけることが出来た。生徒がインタビューしたいと考えた職業をグループ分けをすると以下のようになった。

グループ	職業、訪問先など	グループ	職業、訪問先など
公務員	保健所 新潟市役所	ものを売る仕事	ラーメン屋 洋菓子職人 ファストフード スーパーマーケット ゲームソフト店 スポーツ用品店 野球用品専門店
教育に関する仕事	小学校教員 大学教授 保育士 英会話教室講師		
福祉に関する仕事	介護福祉士		
社会を守る仕事	警察官 消防士	サービスを売る仕事	客室乗務員
動物に関する仕事	犬の訓練士 獣医師 ペットショップ	芸能に関する仕事	声優 漫画家
		スポーツに関する仕事	スポーツインストラクター 高校野球監督
法律に関する仕事	弁護士	技術を生かしてサービスする仕事	プログラマー システムエンジニア 映写技師
機械に関する仕事	機械製造		
その他	新潟スタジアム		

(2) 評価結果

評価は、「関心・意欲・態度②」は、カード2に記入された職業の数で評価した。「技

能・表現①」は情報の検索場面を観察して評価した。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
関心・意欲・ 態度②	インタビュー先を探している。	18人	26人	3人
技能・表現①	インタビューしたい職業と関連した訪問先を探すために、インターネット、タウンページ、書籍等の情報媒体を使うことができる。	42人	5人	0人

関心・意欲・態度では、A Bあわせて44人の生徒が2つ以上の訪問先を探すことができた。これは、事前に「2日間のインタビュー活動になるため断られることも考えて2つ以上は探してください。」と話してあったことと、グループ活動になったため能率が上がったことが考えられる。

技能・表現については、47人全員が検索において2つまたは3つの情報媒体を使うことができた。これは、教室や学年文庫などすぐ手に届くところに情報媒体を置いたことで身近に検索できたためと考えられる。1学期の職業調べ学習では、手軽に使える利点からインターネットでの検索に人気集中したが、この学習を通して生徒の情報検索方法に広がり生まれたと考察する。

学習活動2 ②訪問先にアポイントメントを取る。

(1) 指導・学習の過程

教師は授業のはじめに、訪問先へアポイントメントを取るための準備として「訪問日時」「訪問の目的」「主な質問内容」をカード2に記入することを伝え、記入の仕方を教えた。生徒は自分の考えをカードに記入した。

次に「電話のかけ方」について、教師は役割演技を行い、挨拶や言葉遣い、受け答えのポイントを伝えた。生徒の代表も教師と一緒に役割演技を行い、電話でアポイントメントを取る時の注意点を考えた。生徒はペアを作り電話のかけ方マニュアルに従って電話での応対練習をした。カード2に必要事項を記入し、電話での応対練習を終えた生徒から順番に訪問先へ電話をかけ、アポイントメントを取った。

教師は、実際に電話をかける前にカード2への記入漏れがないかみてから電話をした。また教師との練習を希望する生徒と役割演技をしてから、電話をかけた。

(2) 評価結果

評価は、アポイントメントをとる前のカード2の点検で行った。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
技能・表現①	アポイントメントを取るため			

に必要な事柄をカード2に記入することができる。	25人	13人	9人
-------------------------	-----	-----	----

ABあわせて38人の生徒が、必要な事柄を記入していた。これは、グループで質問事項を考え、練習をした成果であると考察する。しかし、9人の生徒はC評価となった。

(3) 指導の改善と実施

9人のカードへの記入内容を見ると、訪問の目的や主な質問内容を書くことができないとわかった。

このため、9名にはどうしてその職業にインタビューをしたいのか考えることを助言することにした。生徒と面談してみると「何となく」選んでいたり、「ちょっと面白そうだから」インタビューしてみようと思っていたり、インタビューの動機が曖昧なことが分かった。そこで、もう一度イメージマップを作り自分がどうしてその職業にインタビューしたいのか、考え直すように助言した。生徒はイメージマップを作ったり、他のグループのカードを見たり、どんなことを書けばいいのかを聞いたりしていた。

その結果、3人がカードへの記入内容をすべて考え、アポイントメントを取ることができた。6人は主な質問内容を考えることができなかった。

アポイントメントの電話は、昨年度からの反省をうけて、教師が事前に電話を入れ、職業インタビューの日時・目的・主な質問内容を伝えることにした。いたずら電話と勘違いされ断られることを避けるためである。生徒は教師から電話を受けとり、自分の口で必要な事柄を話し、アポイントメントを取った。

教師は、「挨拶をしている」「話に相づちを打ったり返事をしている」「必要な内容を伝えている」「聞きたい情報を得ている」の4つの観点で生徒の様子を観察した。

訪問先への電話は、グループで役割分担を決めて、全員が必ず電話をかけるようにした。

(4) 評価結果

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
技能・表現①	アポイントメントを取るために、訪問先に電話をすることが出来る。	34人	4人	9人

AB評価あわせて38人が電話をすることができたのは、あらかじめ分担を決め、同じ人が何度も電話をしないように工夫した成果と考える。しかしながら、友達にまかせて自分が電話をしなかった生徒が7人おり、C評価となった。残る2人がC評価となったのは、相手への連絡手段が電子メールしかなかったためであることを付け加えておく。

なお、アポイントを終えての生徒の一言感想を以下に紹介する。

3つ探して3つとも全部行けることになってすごくラッキーだった。自分の興味を持っているところに行けることになってよかった。

3つ探したけれど、1つ断られた。でも、断られた所の人が駅に近い保育園を薦めてくれた。

最後にあわてて「ありがとうございました。」と言ったのであまり「OK」とは言えないけれど、ほとんどよかったので自己評価をAにしました。

学習活動2 ③訪問先への手紙を作成し送る。

(1) 指導・学習の過程

教師は、手紙の表書き・文面の書き方マニュアルを準備し、生徒へ配布した。合計3枚の手紙を書き、訪問先へ送ることを伝えた。また、グループで1通の手紙を出すことになるため、分担を決めて書くように伝えた。生徒はグループで分担を決め、マニュアルに従って、訪問先へ手紙を書いた。一人が2カ所のインタビュー先を訪れ、しかも1日目と2日目のグループメンバーが変更するところもあったが、生徒同士やりくりをしながら手紙の分担を決めて書いていた。

事前に教師が文面を読み「訪問日時」「訪問の目的」「質問内容」「訪問者の名前」が書かれているかチェックし、訪問の2週間前を締切日として提出するように伝えた。生徒は、誤字・脱字に注意をしながら鉛筆で下書きをし、ペンで清書をした。最初、間違えた字は修正液で消せばいいと考えている生徒が大半だったため、修正液を使うことは大変失礼であることを教え、修正液の使用をやめるように伝えた。その後は緊張感を持って手紙を書く生徒の姿が教室のあちらこちらで見られた。3回以上書き直した生徒もいたり大変がんばって書いている様子が伺えた。

(2) 評価結果

評価は、生徒が書いた手紙の内容と、郵送した日付のチェックで行った。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
技能・表現①	訪問先に、訪問日時・訪問の目的・質問内容・訪問者の名前を伝えるために、手紙を書いて送ることができる。	25人	17人	5人

25人は締め切り日を守って提出できたが、22人の生徒が2週間前の締め切りを過ぎても提出できなかった。そこで部活動の時間をもらい、手紙を作成する時間に当て作成し提出するように話した。その結果、17名が10日前には提出を終了した。

生徒の姿から、グループで手紙の作成を分担したため誰かが遅れると全員が締め切りに遅れB評価になったグループが7つ(15人)あることが分かった。授業では手紙の書き方を教え、時間をそれほど多く確保せず生徒に任せたことと、生徒同士の連絡が上手くい

かなかつたため、結果として一次締め切りの2週間前に遅れた生徒が22人いたと推測できる。このことから、手紙を書く時間を予定の2時間にプラス2時間の4時間設定して、1日目のグループで書く時間、2日目のグループで書く時間というように区切ったほうがよかつたと考察する。

書き終わらなかつた5人の生徒には、教師がマンツーマンについて、手紙を完成させた。

学習活動3 インタビューの準備をする。

①訪問先への行き方を調べ、予定表を作る。

(1) 指導・学習の過程

生徒は訪問先に行くために行動予定表を作成した。教師は、JR時刻表、バス路線図、バス時刻表、料金表、地図を準備し、行動予定表への記入を教え、書き方マニュアルを準備した。これらのツールは廊下に配置し、いつでも調べたり記入できるようにしておいた。生徒は予定表を作成する過程で、分からないところは教師に聞いたり友達に教えてもらったりしながら完成させていった。また、住所ではどのバス路線に乗り、どのバス停で降りればいいのか分からない場合には、もう一度訪問先に電話をし、情報を聞くなどした。教師はバス路線が適切か、時刻は合っているか、料金は合っているか、アポイントの時刻に間に合うか、一緒に考えながら予定表を作成した。下見では、実際に生徒の作った予定表で訪問先に到着できるか確認した。無理のある予定表を作成しなグループには訂正箇所を教え、完成させた。

(2) 評価の結果

評価は最終的に提出された予定表を見て行った。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
技能・表現①	訪問先に行くために、JRやバスの時刻表、路線図、料金表を用いながら行動予定表を作ることができる。	18人	26人	3人

A評価の「交通手段、路線、時刻、料金を整合性よくまとめて書いている」となった生徒は18人だった。18人のうち13人の生徒は、積極的に相談に来てバス路線図やJR時刻表の読み方を聞いていた。また、そのうちの3人はインターネットでのJR時刻、料金の調べ方をみんなに教えていた。教師の手直しを必要とするB評価の生徒も含めると、42人の生徒が訪問先に到着できる予定表を作成していた。このようになったのは、教師が相談の時間をたくさん取りバス路線図の読み方や料金の調べ方をグループ別に教えていた成果があつたためと考察する。

ただ、3名の生徒は自力では行動予定表を作成することができなかつた。2人は同じグループの予定表を写して完成させた。1人は教師がマンツーマンで教えて完成させた。3人が自力で行動予定表を完成させることができなかつたのは、技能面で劣ることとやる気がなくて作成できなかつたためと考察する。

学習活動 3 ② インタビュー内容を考える。

(1) 指導・学習の過程

生徒は、すべての職業に共通して調べたいインタビュー内容と、その職業ならではのインタビュー内容を考える活動をした。教師はカード3を準備した。カード3には「インタビュー先、将来の夢との関連、どうしてそこでインタビューするのか、仕事の内容、その仕事に就くための進路、その他調べたことを記入する欄と、質問内容を記入する欄を用意した。また、「人は何のために働くか」を考え記入するプリントを用意して書かせた。

まず、生徒は自分の訪問先の職種、仕事の内容、その仕事に就くための進路、その他調べたことを記入した。そのとき、1学期の職業調べ学習で作成した職業レポートや新聞スクラップ、書籍を参考にして記入するように伝えた。

次に、すべての職業に共通の質問事項として「仕事の内容」「働く意義」「苦勞」「働くことの素晴らしさ」を尋ねる質問を考えカード3に記入した。

最後に、自分の訪問先の職業ならではの質問内容を考え、カード3に記入した。生徒は訪問先の職業の特色を念頭におき質問事項を考えた。最後に、同じ場所を訪問するグループで質問内容を持ち寄り、質問内容の精選を行った。

(2) 評価の結果

評価は、最終的に提出されたカード3の内容で行った。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・判断①	「仕事の内容」「働く意義」「苦勞」「働くことの素晴らしさ」を聞き出す質問内容を考えたり、職業に応じた特色ある質問内容を考える。	27人	19人	1人

46名の生徒は、インタビュー内容を考えることができた。1名の生徒は何も考えられないという結果になった。

(3) 指導の改善と実施

カード3の内容を読み、教師は生徒が実際にインタビューするときに大切なのは職種に応じた特色ある質問だと考え、B評価の生徒19名には、評価の結果、「仕事の内容」「働く意義」「苦勞」「働くことの素晴らしさ」以外にも職種に応じた特色ある質問を記述するように促した。その結果、19名のうち10名が訪問先の職業について調べ直した。

また、教師はC評価の生徒に「他の人の質問内容を読んで、何か書きましよう。」と話しかードに記入させた。C評価の生徒は、他の生徒が考えた質問内容から適切なものを選びカード3に記入した。

難しかった。」「友達が行くインタビュー先の仕事に疑問がたくさんあったので聞いてきてほしい。」「しゃべりやすい友達にばかり書いていた。」と書いてあった。C評価の7人のうち5人は、授業中おしゃべりに夢中で違うことを話していた。そのうちの1人は「全然考えなかった。」と感想を書いていたが、C評価のついた生徒たちは、この学習活動に魅力や必要性を持たなかったと推測する。その結果として評価も悪くなったと考察する。

しかしながら付箋の内容を読むと、色々な職業のインタビュー内容を考え、相手に伝える活動は非常に難しいことであったと分かった。生徒は自己評価の中で「その職業ならではの質問を考えた」と感じていても、教師から見ると物足りなかったりと、意識の開きが見られた。この学習は、現在の生徒の力では困難であると思われるため、中学2年時に再び行われる職業インタビュー活動では学習過程に一層の工夫を加え、再び実践したいと考えている。

学習活動3 ④付箋の内容を参考にして自分のインタビュー内容を改善できる。

(1) 指導・学習の過程

生徒は友達からもらった付箋用紙を読み、参考になる事柄をインタビュー内容として追加した。教師は机を巡回し付箋の内容に目を通した。生徒が付箋を整理する様子を見ながら、付箋に書かれている大切な情報を落としていないか、似たような内容だが、相手にとって答えやすい質問はどちらかなどについて、具体的なアドバイスを加えながら生徒のインタビュー内容をチェックしていった。

(2) 評価の結果

評価は、カード3に記入された質問内容を見て行った。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・判断①	付箋の内容を参考にしてインタビュー内容を改善できる。	24人	17人	6人

(3) 指導の改善と実践

質問の改善をしている生徒はA B評価あわせて41名であるが、付箋の内容をじっくり読んでみると、職業の内容を聞き出すための詳しい質問は少なかった。また、教師から見ると重要なことが書かれている付箋を活用していないグループもあったため、教師は巡回しながら質問内容を付け足してみることをすすめた。生徒は教師の指摘を受け、もう一度インタビュー内容を考え直した。

(4) 評価の結果

評価は、2度目に提出されたカード3に記入された質問内容を見て行った。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・判断①	付箋の内容を参考にしてイン	42	4	1

インタビュー内容を改善できる。

再検討の時間を設けたことで、評価が向上した。特にA評価の生徒が24人から42人へと1.75倍に増えた。また、出かける直前のインタビュー練習で、よりよい質問のしかたについて考え直す時間を設けた。

高校野球の監督にインタビューする生徒への付箋用紙

指導者になるまでの苦勞は何ですか。	どうしたら強いチームが作れるのですか	選手にどのような声をかけていますか。	監督・指導者として大切にしていることは何ですか。
-------------------	--------------------	--------------------	--------------------------

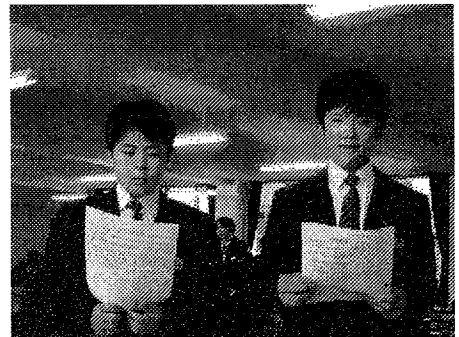
付箋用紙をもらった生徒が付け加えた質問内容

- 1, 強いチームの条件とは何ですか。
- 2, 生徒とはどのようにしてコミュニケーションを取っていますか。
- 3, 監督・指導者として大切にしていることは何ですか。

学習活動4 計画に従ってインタビューをする。

(1) 指導・学習の過程

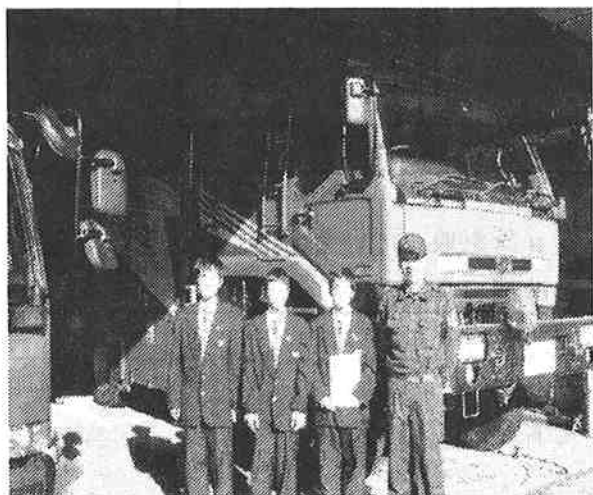
インタビュー活動に出かける前にインタビュー練習の時間を1時間設定した。挨拶・礼儀正しい言動・インタビューに対する受け答えについてグループごとに練習した。生徒たちは役割分担を決め、役割演技を行いながら本番にむけての練習を行った。この学習活動は事前の予定にはなかったため、評価規準を定めて評価しなかったが、すべてのグループが質問内容の再検討や役割演技に真剣に取り組み、本番に備えた。生徒は自分たちで考えた行動予定表にしたがい1日目・2日目ともインタビュー活動に出かけた。生徒は、集合場所を起点としてそれぞれの訪問先を目指して、バスに乗ったり電車に乗ったり歩いたりして移動した。緊急連絡と安全管理のために携帯電話をグループに一台持たせた。地図をたよりに自らの力で訪問先を見つけることで、社会的な生活力も向上させたい教師の願いもあり計画されたことだが、生徒はととも前向きにインタビュー活動に取り組んだ。計41カ所の訪問先は教師が分担し、生徒の訪問後に挨拶まわりをした。交通機関が確保できない場所は、教師の車で生徒を送った。



1つの訪問先を除き、すべてのグループが60分以内でインタビュー活動を終える計画だったが、相手の好意から普段見られないところを見学させてもらったり、計画にはなかった実習を取り入れてもらったりして計画よりも遅く帰るグループもあった。また、おみやげや飲み物をくださったところもあった。疲れてはいるが充実感でいっぱいの顔で帰り、自分の訪問先での出来事を友達に詳しく話す生徒の姿があちらこちらでみられた。

学校に戻り、お礼状を書いて感謝の思いを伝えた。

小学校の先生はとても優しく親切にしてくれた。楽しいことを言ってくれたり、1つ1つの質問にしっかり丁寧に答えを返してくれた。道に迷ったとき、近くの人に聞いたら、紙に書いて教えてくれた。この日の職業インタビューではいろんな人にお世話になった。(小学校を訪問して)



僕は西消防署でインタビューしました。「苦勞していることは何ですか。」と聞いたら、「火災の通報が非常に多い。」とっていました。次に、どうしてこの仕事をしているのかと質問したら、「一人でも多くの人たちを助けたいから」とっていました。僕も社会や人の役に立つ仕事に就きたいと思いました。

私が東新潟駅に着くと、職員の方が迎えにきてくれた。訪問介護センターはすごくきれいでぴかぴかに清掃されていた。私が来るのできれいにしたと聞きうれしくなった。私が一番聞きたかったのは、「介護福祉士は他人の世話をしてもいいけれど、家族の世話をしてはいけないのか。」ということ。職員の方は優しく答えてくれた。



(2) 評価の結果

関心・意欲・態度は生徒が訪問先に遅刻したかどうかで判断した。技能・表現は、訪問先の方に書いていただいた評価資料の枚数に評価項目をかけ、通過率で判断した。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
関心・意欲・態度②	計画に従ってインタビューをすることができる。	42人	4人	1人

技能・表現①	インタビュー時にTPOに応じた言動を用いることが出来る。	32人	15人	0人
--------	------------------------------	-----	-----	----

1名の生徒は2つの訪問先に遅刻したが、インタビュー活動をする事ができた。46名は計画に従ってインタビュー活動に取り組んだことから前向きに取り組んだと考察する。TPOに応じた言動については全員がAまたはB評価となった。訪問先の方は、生徒の面前でCをつけることをためらったのかもしれないと考え、自己評価を取って比較したが、ばらつきがでたため評価の判定材料にならなかった。結果的にはC評価の生徒はいなかったことから生徒は緊張感を持って活動し、学習成果があったと考察する。



協力していただいた訪問先の人からのメッセージ

- ・ 中学時から職業観を育成していくことはとても大切なことであると思います。子供たちにとって少しでも参考になるところがあれば幸いです。
- ・ 子供たちに喜んでもらえたか不安でしたが、子供たちからの手紙を読んで少しは貢献できたようなので安心しました。
- ・ 単に文章を読むのではなく、その場での疑問などもあれば質問されるとより理解されると思います。
- ・ 地元の保育園でインタビューや体験をする方がよいのではないのでしょうか。新潟と柏崎では地域性や親の要求も違いますし、自分の住んでいる地域の保育園を調べるのがよい経験ではないのでしょうか。
- ・ 分からなくて当たり前なので、あまり形にこだわらずに分からないことは何でも聞いて欲しいと思います。中学生の立場で実際の職場を勉強することはとてもよいことと思います。これからも色々なことに疑問を持ったら答えを求める教育を推進してください。

学習活動5 仕事の内容・働く意義・苦勞・素晴らしさなどインタビューで得た情報をまとめる。

(1) 指導・学習の過程

学習カードやメモ用紙に書かれたインタビュー内容をA3のレポート用紙にまとめる学習をした。教師は「①発表資料には必ず仕事の内容・働く意義・苦勞・素晴らしさの内容を付け加えること」「②線や色、レイアウトに工夫を加えること」「③インタビュー前と

後の職業観の変化を必ず加えること」の3つを伝えた。また、インタビュー活動はグループで行ったが、発表資料の作成は個人で行うとした。職業観の変化については、学級活動の時間に「人は何のために働くか」をプリントに書かせ、考えをまとめておいた。その内容とインタビュー後の違いを考えてまとめることにした。

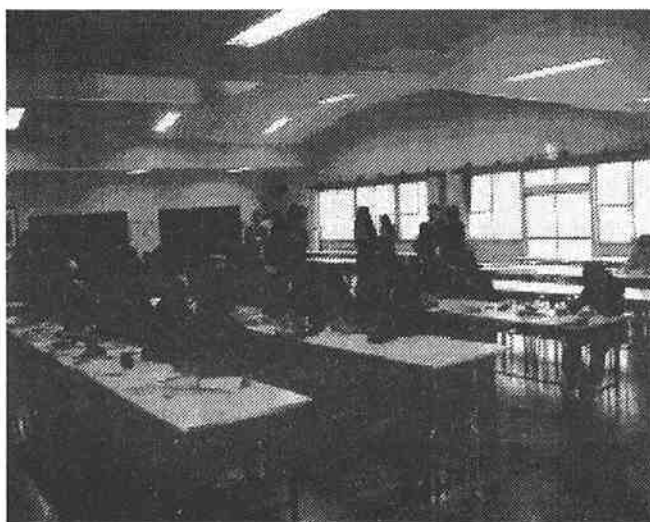
教師は、生徒の発表資料の進捗を見ながら、インタビュー内容として必ず書いて欲しい部分を示唆したり、レイアウトの工夫をしている作品を紹介したり、進捗の遅い生徒を励ますなどの支援活動を行った。

当初、2時間で1つのインタビュー先についての発表資料が完成されるだろうと予定したが、レイアウトに凝りすぎてインタビュー内容まとめにまで至らないであろうと予測される生徒が17名いた。そこで予定より2時間増やし計6時間でまとめることとした。

生徒からは、「インタビューしてみたら働く意義と働く素晴らしさが一緒でした。分けて書かなくてはいいませんか」「働く意義を聞き忘れてました。どうすればいいですか。」という内容や「職業観の変化とは何ですか。自分は今までもこれからも仕事に対する考えは変わりませんでした。」などの質問が出された。

教師は、「働く意義と素晴らしさが一緒という場合もあると思いますよ。」「働く意義を聞き忘れていても、どうしてこの職業を続けているかと質問しましたね。それが働く意義なのではないでしょうか。」「職業観に変化がある人となない人がいていいと思います。自分は変化がなかったと記入してください。できればどうして変化がなかったかも考えるといいですね。」と答えた。

生徒は、出来上がった発表資料を教師に見せ、インタビューメモと読み比べながら付け加えたい情報が聞いたり、色使いや写真のレイアウトをどう工夫するか相談したりしながら発表資料を2つ完成させることを目標に学習を進めた。



(2) 評価の結果

評価は、2つの発表資料の提出日と内容で行った。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
関心・意欲・ 態度②	インタビュー内容を発表資料にまとめることができる。	40人	6人	1人
思考・判断②	職業インタビューの前と後を比べ、職業に関する自分の考えが変わった点と変わらない点について考える。	13人	18人	16人

技能・表現②	インタビュー活動で得た情報をわかりやすくまとめるために、レイアウトや図、線などを使うことができる。	15人	24人	8人
知識・理解①	「仕事の内容」「働く意義」「苦労」「働くことの素晴らしさ」について理解する。	23人	18人	6人

関心・意欲・態度②については、1名を除き全員が期限までに1つは発表資料を完成させた。インタビューの内容をまとめて発表したいという前向きな気持ちが現れた結果だと考察する。

思考・判断②については、発表資料に職業観の変化について、C評価「変わった点のみを記述している」生徒が16名いた。このことについては、教師は「変わった点と変わらなかった点を記載している」をB評価と定めたが、基準に無理がなかったか考えた。職業観の変化については、「人は何のために働くか」を記入したプリントと、インタビューで得た情報を読み比べ、自己の職業観の変化をみとることにした。しかし1回のインタビュー活動で変化する生徒もいれば、変化しない生徒もいる。これらのことを配慮し、評価基準を考えることが大切と考えた。

技能・表現②については、39名の生徒が資料に工夫を加えまとめていた。これは、教師がよい作品例を紹介したことと、同じグループでお互いに見せ合ったり相談したりしながらまとめたことがよかったためと考察する。

知識・理解①は、自分の将来の夢や興味関心あることに関連する職業を調べる過程で、AB評価あわせて41名の生徒が知識を得て理解を深めたと判断できた。働く人に直接インタビューすることで、仕事の内容や働く意義・苦労・素晴らしさをよく理解し、学習成果があったと考察する。

学習活動6 職業インタビューの発表を通して、自分の生き方について考える。

① インタビューのまとめを発表し合う。

(1) 指導・学習の過程

発表資料の内容を読み直し、発表用原稿にまとめ直す時間を設けてから発表会を開いた。発表用原稿の記入用紙は、順番にそって記入すれば「順序よく発表できる A評価」になるように作成しておいた。生徒の発表資料は文化祭の作品展示で事前に全員が目を通しておき、発表会用には印刷をして全員分が行き渡るようにした。

発表会では相互評価用紙を準備し、聞きっぱなしにしないようにした。相互評価用紙には、「届く声で発表しているか3・2・1」「資料を順序よく示して発表しているか3・2・1」の2つの観点で記入するようにした。教師も同じ評価用紙を準備し発表場面を観察した。発表場面では、発表用原稿の下書き用紙に記入して準備をしている生徒が、結果としてよい評価となった。声が小さくて何を話しているか分からなかったり、「あとは読んでください。」などと言って省略する生徒はC評価とした。

(2) 評価の結果

教師は発表場面を見て、生徒と同じ評価用紙を用いてその結果で判定した。

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
技能・表現①	インタビュー活動で得た情報をわかりやすく伝えるために、声の大きさに気をつけたり資料を順序よく示して発表することができる。	21人	16人	10人

この結果から、37名が目標に到達できたことがわかる。37名全員が発表用原稿を準備していたわけではないが、資料を順序よく示すことで評価がAやBとなった。C評価の生徒には、今後個別の指導で発表力を伸ばしていく必要があると考察する。

学習活動6 ② 職業インタビューを通して気づいたこと、今後の生活をどうしていきたいか考えたことを作文に書く。

(1) 指導・学習の過程

カード3発表資料、発表用原稿、インタビュー時のメモ等を頼りに、インタビュー活動を通して得たことを作文にまとめた。生徒は、職業インタビュー活動で身に付いた力や苦労したこと、インタビューをまとめながら考えたことなど、自分自身を振り返りながら作文を書いた。教師は作文の評価項目をあらかじめ生徒に示し、どのような観点で評価するかを伝えた。

(2) 評価の結果

評価の 観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		A (3)	B (2)	C (1)
思考・判断①	自己の職業観の変化を確認し、働く意義や苦労、素晴らしさから導き出される「職業人の生き方」をふまえ、今後の自分の生活について考えることができる。	15人	21人	11人

AB評価あわせて36名の生徒が今後の自分の生活について考えることができた。11名の生徒は今後の生活を振り返るまでには至らなかった。C評価となった11名の評価のあゆみを学習活動1から追い、どこにつまずきがあるか調べた。すると学習活動5で、思考判断②「職業インタビューの前とあとを比べ、職業に対する自分の考えが変わった点と変わらない点について考える。」においてもC評価だった生徒が11名のうち7名だった。学習活動5で思考判断②のC評価が16名いたが、指導の改善を加えなかったことも要因となり、ここでもC評価になってしまったと考察する。

以下に生徒の作文から抜粋したものを紹介する。

私は、総合で将来のことについて考えてきました。1年生全員で2学期の後半に職業インタビューすることになっていました。そしていろいろ考えた結果、前からなりたいたいと思っていた保育士にインタビューしようと決めました。

このインタビュー活動を通して、人は何のために働くのか考えてみました。インタビューに行く前は、お金のため・生活のため・自分の才能を生かして夢を叶えるため・生きるためだと思っていました。インタビュー後には、人の役に立つためという考えも加わりました。そして、身に付いたことは、電話の対応・手紙の書き方・将来のことを考える力です。特に身に付いたと思う力は、挨拶・礼儀・言葉遣いです。この活動でいろいろなことを学びました。これからの学校生活や将来を考えると生かしていこうと思います。

(2つの保育園を訪問したEさんの作文)

私は新潟空港にインタビューに行きました。客室乗務員にすごく興味がありました。客室乗務員に直接話を聞きたかったけれど、直接は聞けませんでした。インタビューをしてみてわかったことは、客室乗務員という仕事は、見た目は華やかに見えるけど、この仕事に就くのはすごく大変だということです。歩き方や茶道、着物の着付けなど他にも沢山のことができなくてはいけないそうです。けれど、その分仕事はすごくやりがいがあり楽しいそうです。

私はインタビュー前、人はお金のため・生活をするために働くと思っていました。けれどインタビューに行った後では、人は自分に合った仕事をし、やりがいや生き甲斐が感じられるために働くと思います。仕事はお金だけではないと思いました。私がこれから身につけなくてはいけないのは挨拶の仕方だと思います。空港の会社に入るときいろんな人がいて、その人たちに何て言っていかが分かりませんでした。なので私がこれから勉強しなくてはいけないのは挨拶などの礼儀についてです。

インタビュー活動では、自分が将来のためにしていかななくてはいけないことが分かりました。また、将来に役立つことも身に付いたと思います。私は、将来やりがいや生き甲斐が感じられる仕事に就きたいと思いました。

(英会話学校と日本航空を訪問したNさんの作文)

僕がラーメン屋に行った理由は2つある。1つはうまいラーメンを作るためにどんな工夫をしたか、もう1つはラーメン屋の仕事をして何が一番うれしいか知りたかったからだ。がんこ屋は、僕が思っていたよりも有名な店で、広がった。ラーメン屋の仕事をしていて何が一番うれしいか」と質問したら、客がラーメンを食べておいしいと言ってくれたとき」と答えてくれた。僕もラーメン屋をしていたら多分そう思うだろう。麺屋うちやまでは「うまいラーメンを作るためにどんな工夫をしているか」質問した。「仕込みの時にスープに具をいっぱい入れる」と答えてくれた。

インタビューをしてよかったことは、会ったことのない人と緊張しないで話せ

たこと、自分が知らないことをいろいろと教えてもらえたことだ。僕も家でラーメンを作ることがあるので、よりおいしいラーメンを作ろうと思いました。

将来、ラーメン屋になったとしたら、麵屋うちやまのように、小さくて客に好かれるラーメン屋になると考えた。(ラーメン屋を訪問したSさんの作文)

2-2 自己学習力の向上に向けた評価の工夫

(1) 第1レベルの工夫について

① 取り組む活動の前に評価資料やカード等とその評価基準を開示する

すべての学習活動と自己評価欄、感想を記入する欄を一覧表にして配布し授業を進めた。一覧表には、学習の過程と学習内容、評価の観点を記載した。教師は授業のはじめに一覧表を読みながら、学習課題と評価基準を示した。生徒は授業が終わってから一覧表に自己評価の結果と感想を記入し、個人ファイルに保管した。教師は場面ごとに回収して自己評価や感想をチェックした。学習課題の不備や生徒のつまづきはどこにあるのかを中心にみとることができた。

このやり方では、事前にどんな学習をするか、何をもって、どんな基準で評価するかを生徒に伝えることができたため、生徒自身の課題と目標が明確になり取り組みやすかったと考える。実際に「今回はBだったから次はAにしよう。」と一言感想を書いている生徒もいた。また、教師があらかじめ設定した学習活動における評価基準と生徒の実際の姿にずれが生じたとき、自己評価や一言感想を読むことで修正を加えながら授業を進めることができた。この学習活動を続けると、生徒の自己評価力も向上し、教師の指導力も向上させることができると考える。

2-3 外部への説明責任に向けた評価の工夫

(1) 単元の総括的評価結果

本單元における観点別の総括的評価は、「関心・意欲・態度」については学習活動1①2①・4・5の総和で、「思考・判断」については学習活動1②・3②④・5・6②の総和で、「技能・表現」については2③・3①・4・5・6①の総和で、「知識・理解」については学習活動5の評価結果から行うこととした。

なお、考察に際しては、評価結果3は80%以上相当、2は60～79%相当、1は59%以下相当の達成状況としてみなすことにした。

① 「関心・意欲・態度」について

観 点 \ 評価基準	A(3)	B(2)	C(1)	合計
関心・意欲・態度① (学習活動1①)	32人	13人	2人	47人
関心・意欲・態度② (学習活動2①)	18人	26人	3人	47人
関心・意欲・態度② (学習活動4)	42人	4人	1人	47人
関心・意欲・態度② (学習活動5)	40人	6人	1人	47人

計	132人	49人	7人	188人
---	------	-----	----	------

ここでは、自分の将来の夢を思い描き（学習活動1①）、訪問先を探し（学習活動2①）、職業インタビューに出かけ（学習活動4）、インタビューをまとめる（学習活動5）における関心・意欲・態度をみた。A評価の生徒が132人（70％）に達したことから、生徒は関心・意欲・態度をもってこの学習活動に取り組んだと考察する。もっとも評価がよかったのは学習活動4で、全員が職業インタビュー先に出かけることができた。また学習活動2①「訪問先を探す」活動では、AB評価あわせて44人（93％）が2つまたは3つの訪問先を探すことができた。ただ、C評価のついた3名のうち2名は、自らの将来像を思い描けない、または思い描けても自ら学ぶという意欲が低く、グループの友達に頼る傾向が見られた。C評価がついた生徒のやる気を引き出すための支援の工夫を考えたい。

全体にはAB評価あわせて180人（96％）となったことから、本単元において、関心・意欲・態度の高まりは十分達成されたと考える。

② 「思考・判断」について

観 点	評価基準	A(3)	B(2)	C(1)	合計
思考・判断①（学習活動1②）		24人	14人	9人	47人
思考・判断①（学習活動3②）		27人	19人	1人	47人
思考・判断①（学習活動3④）		42人	4人	1人	47人
思考・判断②（学習活動5）		13人	18人	16人	47人
思考・判断②（学習活動6②）		15人	21人	11人	47人
計		121人	76人	38人	235人

ここでは、自分の将来の夢と職業を関連づけ（学習活動1②）、インタビュー内容を考え（学習活動3②）、改善を加え（学習活動3④）、インタビュー前と後の職業観の変化（学習活動5）や自らの生き方を考える（学習活動6②）活動における思考・判断の力をみた。

この結果から、AB評価あわせて197人（84％）が仕事の内容と働く意義・苦勞・素晴らしさを考えたり、自己の職業観や働く意味を関連づけて考えることができたと分かる。全体の50％である121人がA評価となったことから、思考・判断の力は本単元において、十分に成果を上げたと考える。

最もよかったのは、学習活動3④「インタビュー内容を改善できる」であった。これは前述したように、インタビュー内容を練り直す活動をインタビュー直前の授業に加えたことで評価が大幅に向上したためである。

最も悪いのは学習活動5で、職業観の変化を考えさせる活動だった。事前にワークシートを準備し、「人は何のために働くか」を考えさせたが、事前の活動とインタビューで得た情報を重ね合わせたり比較したりする学習過程が不足したため、生徒の思考・判断に深まり生まれなかったのだと考察する。それが学習活動6②で、作文を書きながら自己の職業観の変化に触れ、自分の生活を振り返る活動にもひびき、不十分な結果となってしまった。今後課題を残す結果となった。

③ 「技能・表現」について

観点	評価基準	A(3)	B(2)	C(1)	合計
技能・表現①	(学習活動 2 ③)	25 人	17 人	5 人	47 人
技能・表現①	(学習活動 3 ①)	18 人	26 人	3 人	47 人
技能・表現②	(学習活動 4)	32 人	15 人	0 人	47 人
技能・表現②	(学習活動 5)	15 人	24 人	8 人	47 人
技能・表現②	(学習活動 6 ①)	21 人	16 人	10 人	47 人
計		111 人	98 人	26 人	235 人

ここでは、訪問先に手紙を書き（学習活動 2 ③）、行動予定表を作り（学習活動 3 ①）、TPOに応じた言動でインタビューをし（学習活動 4）、得た情報をまとめ（学習活動 5）発表する（学習活動 6 ①）技能・表現の力をみた。最もよかったのは学習活動 4 で、訪問先の方から高い評価をいただいた。訪問先の方が若干のご褒美をくださったとも憶測できるが、生徒は、初めて会う人とはどのように振る舞えばよいか理解して行動した結果であると考察する。

最も悪かったのは学習活動 6 ①で、インタビューのまとめを発表する活動である。発表の力を伸ばすための工夫が必要という教師の課題が明確になった。

AB評価あわせて 209 人（89%）となった。本单元において技能・表現の力を総合的に判断すると十分に成果を上げたと考える。。

④ 「知識・理解」について

観点	評価基準	A(3)	B(2)	C(1)	合計
知識・理解①	(学習活動 5)	23 人	18 人	6 人	47 人

知識・理解は、学習活動 5 でみたが、AB評価あわせて 41 人（87%）となった。仕事の内容・働く意義・苦勞・素晴らしさを理解した生徒が 87%いた。本单元において十分に成果を上げたと考える。

(2) 单元における個人内評価結果

次に、A児、B児、C児、D児の 4 名を事例にしながら、個人内評価の特質について検討することにする。そのため、まず、4 名の生徒の個人評価結果表を示すと、次のようである。

個人評価結果表

		学習活動 1		学習活動 2					学習活動 3				学習活動 4		学習活動 5		学習活動 6		評定
		①	②	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	4	5	①	②			
A児	関心意欲態度	3		3									3	3					A
	思考・判断		3							3	3	3		3		3			A
	技能・表現				3	3	3	3	3				3	3	3				A
	知識・理解													3					A

B 児	関心意欲態度	<u>3</u>	<u>2</u>								<u>3</u>	<u>3</u>			A
	思考・判断		<u>2</u>					<u>2</u>	2	<u>3</u>		<u>2</u>		<u>3</u>	A
	技能・表現			3	<u>3</u>	3	3	<u>3</u>				<u>3</u>	<u>3</u>	<u>3</u>	A
	知識・理解											<u>3</u>			A
C 児	関心意欲態度	<u>2</u>	<u>2</u>								<u>3</u>	<u>3</u>			A
	思考・判断		<u>1</u>					<u>2</u>	2	<u>3</u>		<u>2</u>		<u>3</u>	B
	技能・表現			1	<u>2</u>	3	3	<u>2</u>				<u>2</u>	<u>1</u>	<u>2</u>	B
	知識・理解											<u>2</u>			B
D 児	関心意欲態度	<u>2</u>	<u>1</u>								<u>3</u>	<u>1</u>			C
	思考・判断		<u>1</u>					<u>1</u>	1	<u>1</u>		<u>1</u>		<u>2</u>	C
	技能・表現			1	<u>1</u>	1	1	<u>1</u>				<u>2</u>	<u>1</u>	<u>1</u>	C
	知識・理解											<u>1</u>			C

注：評定は、総括的評価結果に基づき、Aは80%以上相当、Bは60~79%相当、Cは59%以下相当の達成状況を示している。

① 観点間経時的評価

A児は、学習活動1・2、学習活動3・4、学習活動5・6のすべてを通して、4つの観点ともに「3」という高い水準での構造的な特質がみられる。このことから、A児は学習内容をよく把握し、めあてに向けてしっかりと学習し成果を上げたことが分かる。そのため、評定においてもすべての観点で「A」となっている。

B児は、学習活動1・2、学習活動3・4、学習活動5・6を通して、思考・判断がやや落ち込みつつも、他の3つの観点ともに「3」といった構造的な特質がみられる。なお、評定においては4つの観点ともに「A」となっている。

C児は、学習活動1・2では思考・判断が「1」、関心・意欲・態度が「2」、そして技能・表現は最初の「1」から「2」へ、さらに「3」へと高まるといった構造的な特質にあったが、学習活動3・4に入ると、関心・意欲・態度が「3」へ、思考・判断が「2」から「3」へとともに高まる反面、技能・表現が「2」へとやや落ち込んでいる。学習活動5・6では関心・意欲・態度と思考・判断面は「3」と高い水準にあるが、技能・表現及び知識・理解は、学習活動3・4においてやや落ち込んだ「2」という水準のままに推移するという構造的な特質がみられる。なお、評定は、関心・意欲・態度が「A」、他の3つの観点は「B」となっている。

D児は、学習活動1・2においては3つの観点ともに「1」という低い水準にあるが、学習活動3・4においては思考・判断は「1」の水準であるが、技能・表現は「2」へ、関心・意欲・態度は「3」へと向上した構造的な特質をみせている。しかし、学習活動5・6になると、すべての観点ともに「1」という低い発達の水準に落ち込んでいる。評定は、4観点ともに「C」となっている。

なお、A児のような発達傾向を示す生徒は他に9名、B児のような発達傾向を示す生徒は他に5名、C児のような発達傾向を示す生徒は他に7人いた。なお、D児のような発達傾向を示す生徒は他にいなかった。

② 観点内経時的評価

<1>関心・意欲・態度について

A児は3→3→3→3というように、学習過程を通じて高い水準で安定した推移をみせており、評定もAであった。B児は3→2→3→3というように、途中のやや落ち込みがみられるものの、概して3の高い水準で安定した推移をみせており、評定もAであった。C児は2→2→3→3というように、最初の2から後には3へと尻上がりに向上し、高い水準のまま終了するといった発達傾向をみせ、評定もAであった。D児は2→1→3→1と、下降から上昇へ、そして下降するといった出入りの多い不安定な発達の傾向を見せており、評定はCであった。

なお、A児のような発達傾向を示す生徒は他に23名、B児のような発達傾向を示す生徒は他に6名、C児のような発達傾向を示す生徒は他に7名、D児のような発達傾向を示す生徒は他に3名いた。

<2>思考・判断について

A児は3→3→3→3→3→3というように、学習過程を通じて高い水準で安定した推移をみせており、評定もAであった。B児は2→2→2→3→2→3というように、最初のうちは2というやや低い水準にあったが、尻上がりに向上し3で終了するといった傾向をみせており、評定もAであった。C児は1→2→2→3→2→3というように、最初の1から2へ、さらに3へと向上し、最後は3で終了するといった傾向がみられたが、評定はBであった。D児は1→1→1→1→1→2というように学習の初めから中盤は1のまま推移しているが、最後には2へと向上しているが、評定はCであった。

なお、A児のような発達傾向の生徒は他に10名、B児のような発達傾向の生徒は他に8名、C児のような発達傾向の生徒は他に7名、D児のような発達傾向の生徒は他に5名いた。

<3>技能・表現について

A児、B児はともに、3→3→3→3→3→3→3→3というように、学習過程を通じて高い水準で安定した推移をみせており、評定もAであった。C児は1→2→3→3→2→2→1→2というように、学習の進行につれ1から2へ、さらに3へと順調に伸びているが、後半になると2と1の水準で上昇したり下降するといった出入りの多い発達傾向をみせており、評定はBであった。D児は1→1→1→1→1→2→1→1というように、学習の初めから中盤、終盤にかけほぼ1という低い発達の水準のまま推移するといった傾向がみられ、評定はCであった。

なお、A児のような発達傾向を示す生徒は、B児も含め、他に15名いた。また、C児のような発達傾向を示す生徒は他に4名、D児のような発達傾向を示す生徒は他に2名いた。

<4>知識・理解について

A児とB児は、ともに3の高い水準にあり、評定はAであった。C児は2というやや落ちこみをみせ、評定はBであった。D児は1の低い水準を示しており、評定はCであった。

なお、A児やB児と同じような発達傾向を示す生徒は他に21名、C児のような発達傾向を示す生徒は他に17名、D児のような発達傾向を示す生徒は他に5名いた。